雑　　報

553.311：550.83(521.12)

岩手県赤金鉱山磁石山区域物理探鉱調査報告

本調査は昭和30年8月12日から約1カ月間にわたり，岩手県江刺郡赤金鉱山磁石山地区において物理探鉱を実施したものである。

本調査は昭和30年度未利用鉄資源調査の一環として，岩手県の申請に基づく受託調査として行つたもので，29年度の調査の行われた赤金丸森区域の東側に隣接する区域である。

この区域に対しては本調査後東北大学南部松夫によつて地質，鉱床の精査が行われている。

本地域の地質鉱床は磁石山の高所を除いては岩石の露出悪く，地質鉱床の分布賦存状況を詳述することは困難であるが，周辺の地質および附近の転石の状況からみると，今回実施した地区のほゞ中央部を東西方向に輝緑凝灰岩から変質したと考えられる緑色岩類と花崗斑岩との境界があり，北半は緑色岩類，南半は花崗斑岩からなり，後者は前者に変質作用を与え，接触部附近では角閃石・柘榴石・灰鉄輝石等からなるスカルン帯ができている。

物理探査の結果では米里鉱床露天掘跡地区では，地表附近にある砕や地形の影響あるいは掘り残しの鉱石によると思われる磁気異常がきわめて大きく現われた。自然電位法ではこの附近の異常はあまり明らかでない。比抵抗法では砕の影響と考えられるいくぶん低い比抵抗が現われた。

この露天掘跡のほゞ150m北方地区に顕著な自然電位の負異常が認められ，かつ等磁力線の擾乱がいくぶんみられるので，この附近には硫化鉱の潜在の可能性が考えられる。

次に本調査区域の中央から南側と北側とで花崗斑岩と緑色変成岩との分布を示すと考えられるかなり著しい比抵抗の差が現われており，その境界線附近に沿つておのおの3～4カ所の自然電位および磁気の異常が現われている。これらの各異常からこの境界附近は今後探鉱上注目すべき地帯と考えられる。

（調査：柴藤喜平）